

いけばなインターナショナル・サンティアゴ支部 元支部長 エルスベット・ゼンデル・バッフマン氏への旭日双光章伝達式

2026年5月28日

2026年5月20日、日本大使公邸において、エルスベット・ゼンデル・バッフマン氏（愛称：チェピータさん）への旭日双光章伝達式を実施しました。



チェピータさんと曾根大使夫妻



生け花を生けるチェピータさん

旭日双光章は、60年の長きにわたりチリにおける生け花の普及と発展に尽力されたチェピータさんの多大な貢献を称えて授与されました。チェピータさんは、生け花分野において叙勲を受章した二人目のチリ人となりました。

式典には、曾根大使をはじめ、親族、友人、生け花関係者ら多数が出席し、チェピータさんの華道家としての長年の歩みと功績を祝いました。



曾根大使による挨拶



チェピータさんを祝福する親族や友人たち

チェピータさんは、いけばなインターナショナル第 103 支部（サンティアゴ支部）の支部長を 3 期（通算 6 年間）にわたり務めました。支部長を三度も務めたのはチェピータさんのみです。また、チリ草月流およびチリ小原流の会長も務め、小原流では現在も副会長として活動を続けています。

60 年の華道家としての活動において、展示会、デモンストレーション、講演、ワークショップ、メディアへの協力など多数の事業を実施し、その回数は 1,000 回を上回ります。また、その間に華道家の育成にも携わり、チェピータさんから生け花を学んだ生徒数は 500 人に上ります。

また、チェピータさんの活動における強みは、生け花と日本の童話や神話を組み合わせた独創的なデモンストレーションです。生け花を朗読・音楽、照明などと組み合わせて花を生ける演出により、生け花をより分かりやすく魅力的に紹介することに成功しました。

更に、病院や高齢者施設などを積極的に訪問し、普段、外出することのできない方々にも生け花を通じて自然の美しさや日本文化を届け、多くの方々に喜ばれました。

式典で、曾根大使は、チェピータさんのこれら多大な功績を称え、チリにおける日本文化の普及及び発展のみならず、日本とチリの友好関係および相互理解の促進への尽力に対し感謝を表明しました。

これに対し、チェピータさんは、これまで活動を支えてきた家族や友人、生け花関係者への感謝を述べるとともに、チリにおける生け花の発展に尽力した仲間たちへの思いを語りました。



曾根大使による勲記の朗読



曾根大使による勲章の伝達



チェピータさんの謝辞



日本酒での乾杯



曾根大使、ご家族との記念撮影



生け花関係者と教え子たちも出席